

備前中だより

《学校教育目標》「未来を拓く 自立共創する生徒」

《指導の重点》 将来社会人として自立するための力の育成

《育成する力》 自分で考える力・自分で決める力・自分の言葉で表現する力・自ら実行する力・他者に受け入れる力

備前市立備前中学校通信

第3号

令和8年7月1日発行

校長 岸本 憲一

TEL 0869-64-3365

小雨の中で輝いた青春 ～体育会を振り返って～

6月5日（金）、令和8年度体育会を開催しました。当日の朝は、前夜からの雨が明け方まで続き、グラウンドには大きな水たまりが広がっていました。開催が危ぶまれる状況でしたが、「子どもたちのために最高の舞台を整えたい」という思いのもと、教職員とともに保護者の皆様が早朝から水抜き作業に取り組んでくださいました。その間、生徒たちは体育館で教員の話に耳を傾けながら気持ちを整え、仲間とともに迎える大舞台に向けて心をひとつにしていました。

予定より1時間遅れて体育会がスタートすると、小雨が降り続く中でも、生徒たちの熱気がグラウンドいっぱいに広がりました。競技に、応援に、そして係の仕事に、どの生徒も全力で取り組み、雨の影響を感じさせないほどの活気に満ちていました。午前のクラス対抗リレーでは、抜きつ抜かれつの白熱した展開に、会場全体が息をのむほどの盛り上がりを見せました。午後の全校対抗大縄跳びでは、各クラスが円陣を組んで気持ちをひとつにし、ピストルの合図とともに一斉に縄が回り始める光景が圧巻でした。クラスの絆や思いが、跳ぶたびにグラウンドに響いていました。そして、体育会の締めくくりとなったソーラン節。実行委員を中心に何度も練習を重ねてきた成果を、全校生徒が心を合わせて力強く表現しました。踊り終えた後の生徒たちの表情には、やり切った充実感と、仲間とともに挑んだ誇りが満ちていました。

今年の体育会スローガン「繋げ 輝け～価値ある勝ち 青春 MAX～」には、勝敗だけではなく、努力する過程や仲間とのつながりを大切にする思いが込められています。生徒たちが見せてくれた「最後まであきらめない気持ち」「仲間を思いやる心」「自分の役割を全うする姿勢」は、まさにこのスローガンを体現するものであり、本校が大切にしている「自立・共創」の姿そのものでした。

また、生徒たちが自分たちの手で体育会をつくり上げようとする気持ちが、どの場面にも表れていました。保護者の皆様にも、当日の生徒の表情からその成長を感じていただけたのではないかと思います。体育会から約1か月が経ちましたが、あの日の経験は生徒たちの中に確かな自信として残っています。仲間と力を合わせて一つの行事をつくり上げた経験は、これからの学校生活にも必ず生きていきます。今後も、生徒の成長を支える教育活動を進めてまいります。



仲間と歩んだ軌跡を胸に ～備前東地区総体を振り返って～

6月13日（土）、14日（日）、20日（土）、21日（日）の4日間にわたり、備前東地区中学校総合体育大会が開催されました。各会場では、生徒たちがこれまで積み重ねてきた練習の成果をしっかりと発揮し、真剣な表情で試合に臨む姿が見られました。

特に3年生にとっては、この大会が部活動の集大成となる大切な舞台でした。勝敗が決まる瞬間だけでなく、試合の合間に仲間同士で声をかけ合い、気持ちを整えながら次のプレーに向かう姿、最後まで諦めずにボールを追いつける姿には、これまでの練習の日々が確かに積み重なっていることを感じました。競技を終えた後の表情には、悔しさや喜びだけでなく、「やり切った」という誇りがにじんでいました。

見事、県大会への切符を手にしたチーム・個人の皆さんには、地区の代表としてさらに技と心を磨き、次の舞台でも自分たちの力を存分に発揮してほしいと思います。また、今大会をもって引退となる3年生の皆さん、本当にお疲れさまでした。皆さんがこれまで積み重ねてきた努力、仲間と支え合いながら乗り越えてきた経験は、必ずこれからの学校生活や進路選択の大きな力になります。部活動で培った粘り強さや協働する力は、これからの人生のさまざまな場面で皆さんを支えてくれるはずです。

保護者の皆様には、これまで生徒の活動を温かく見守っていただき、そして大会当日には熱い声援を送ってくださり、心より感謝申し上げます。生徒たちが落ち着いて競技に向かい、仲間と力を合わせて最後までやり抜くことができたのは、皆様の支えがあったからこそです。今後とも、本校部活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

